

<「知るっば!久留米」 令和2年9月10日(木) 12:30~放送分>

久留米の救急救命 ～第2回～ 救急隊員のお仕事

<ゲスト：久留米広域消防本部 救急防災課 課長補佐 中村慎一さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

9月は、『久留米の救急救命』をテーマに医療や救急救命にまつわるお話をお送りしています。

今日のゲストは、この方です。

ゲスト:中村慎一さん (以下「中村」)

久留米広域消防本部、救急防災課の中村です。

よろしくお願いします。

坂本 よろしく申し上げます。

今日は、『久留米の救急救命』の第2回ということで、『救急隊員のお仕事』をテーマにお話をうかがいます。

救急隊員さんと言えば、救急車に乗って怪我や病気の方を病院に運ぶということは、子どもさんでも知っていると思います。

実は、私も救急車に来ていただいたことがありまして、電話をして「火事ですか?急病ですか?」みたいに聞かれて、ドキドキしながら電話をしました。

私は以前、生涯学習センターに配属されていまして、そこは高齢者の方が多いんですよ。

そこで、お客さんが急病で倒れて、救急車をお呼びしたことがあります。

その後、すぐに来ていただいて、その時の隊員さんがキビキビと対応されていて、手際が良いという印象を持っています。

みなさん、そういう救急の現場では、こういった活動をされているのでしょうか?

中村 通常、救急隊は3名で出動しています。

現場で傷病者の脈や血圧などを観察し、酸素投与や怪我の処置などを行います。

また、心肺停止の場合には、人工呼吸や心臓マッサージ、AED を使って電気ショックを行います。

特に救急救命士については、ドクターの指示のもと、器具を使った気道確保や点滴処置を行う場合もあります。

坂本 なるほど、救急隊員さんも色々とすることが多くて大変ですね。

今のお話で救急隊の中に「救急救命士」という資格をお持ちの方がいらっしゃるようですが、どういった方ですか?

中村 救急救命士とは、約7ヶ月の救急専門の研修を終了して、国家試験を合格した救急隊員です。
現在、80名の救急救命士が現場で活動しています。
また、当消防本部では、救急車に最低1名は必ず救急救命士が乗車することになっています。

坂本 みなさん、色々な努力や勉強をされて救急救命士になられたと思います。
その救急救命士については、先ほども少しお聞きしたのですが、何か特別な活動をなさるのでしょうか？

中村 救急救命士と救急隊員の違いは、傷病者に対して行うことができる救命処置の範囲です。
救急救命士は、ドクターの指示のもと点滴処置や器具を使用して気道確保などを行うことができます。
さらに、救急救命士の中でも研修や実習を受けた者は、血糖測定やアドレナリン投与、気管内挿管などを行うことができます。

坂本 なるほど、そんな色々な処置をしていただけるとちょっと安心しますね。
現場では、一刻を争うこともあると思うんですね。
そういう時は、最初の処置の速さが大事なんでしょうと思います。
そんないつも大変な救急隊のみなさんですが、出動されない時間もあると思いますが、そんな時ってどうお過ごしなのでしょうか？

中村 基本的に救急隊は、24時間勤務の2交代です。
24時間の仕事に出動の多い救急隊では、20件近く出動することもあります。
その中で、計画的に資機材の取扱いや様々な現場を想定したシミュレーション訓練などを行っています。

坂本 やっぱりお忙しいですね。
1日に20件近くも出動することもあるってことは、もう行って帰ってきたら、またすぐ行くみたいな時もあるんですね？
そのお忙しい中で、色々な準備や訓練をされるのも気が抜けないでしょうし、大変なお仕事だと思います。
そして、何より、予想以上に頻繁に出動されていることがわかりました。
ご苦労様でございます。
そんな救急隊員のみなさんや救急救命士さんは、テレビのドラマなどで取り上げられることもあるので、将来なりたいという若者もおられるんじゃないかと思います。
そういった救急隊員を目指す若いみなさんへ、メッセージもお聞かせください。

中村 消防の仕事は、火災現場で火を消す消防隊、救助現場で人を助ける救助隊、そして、病気や怪我の人を搬送する救急隊があります。
それぞれ違うようにも見えますが、目的はひとつで「市民を守る」という使命感を持ち、現場で活躍

しています。

消防の仕事は、緊迫した災害現場や日々の厳しい訓練など大変な業務ですが、とてもやりがいのある仕事です。

今年の採用試験の受付は終了しましたが、毎年8月に職員採用試験の募集をしています。

17歳から26歳までの男女関係なく採用試験を受けることができますので、興味をお持ちの方は消防本部のホームページでも紹介しておりますのでぜひご覧ください。

坂本 消防のお仕事は、本当に市民のみなさんを守る第一線ですし、世のため人のためになるお仕事だということがダイレクトに伝わってきました。

まさに、命に直結しているお仕事には頭が下がります。

中村さんありがとうございました。

中村 久留米広域消防本部からのお知らせです。

救命率の向上には、119番通報から救急隊到着までの間に、救急現場に居合わせた方々が迅速に応急手当を実施できるかが重要となります。

このことから、当消防本部では、市民の方々がひとりでも多く社会復帰となるよう応急手当の普及啓発に努めています。

現在、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、積極的な応急手当の講習を行っていません。

しかしながら、いざそのような場に遭遇した場合には、ぜひ応急手当を実施していただきたいと思っています。

意識がなく呼吸をしていない傷病者には、心臓マッサージのみ実施してください。

自分を守りつつ傷病者を助けることが重要です。

ご協力よろしく申し上げます。

坂本 次回は、みなさんよくご存知の救急車をテーマにお届けいたします。

中村さん、来週もよろしくお願いいいたします。